

膵臓がんの早期発見

質問

60代の女性です。背中が痛いと言っていた知人が、病院で膵臓がんと診断されたそうです。膵臓がんは発見が遅れると聞きましたが、早期に見つけることは困難ですか。糖尿病があるので心配です。



岡田 泰行

徳島大学病院
消化器内科特任助教

回答

膵臓がんは日本では増加しているがんです。膵臓がんになると腹痛や背部痛の症状のほかに、黄疸や体重減少、食欲不振が出てきます。しかし、これらの症状は膵臓がん以外の病気でもみられます。必ずしも早期発見につながるわけではありません。早期がんは無症状のことが多く、残念ながら症状が出た時には多くの患者で既にがんが進行している状態で発見されます。

膵臓がんの原因はまだはっきり分かっていません。しかし、いくつかのリスク要因が分かっています。例えば、膵臓がん患者が家族にいたり、リスクが高いとされています。さらに、第1近親者（親や兄弟、子）に2人以上の膵臓がん患者がいる家系は特にリスクが

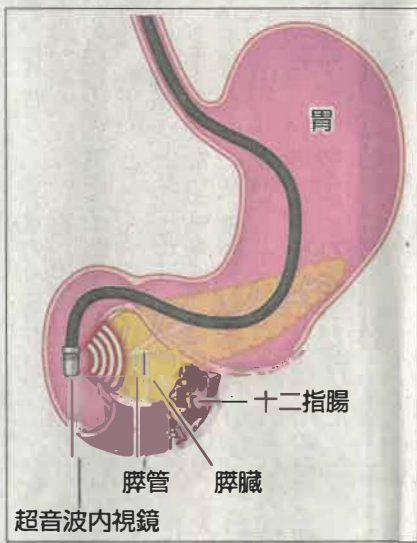


高いとの報告があり、こうした家系は家族性膵臓がんの可能性が高いです。

遺伝的な病気として遺伝性膵臓がん症候群があります。生活習慣では糖尿病がリスクとされています。糖尿病の急激な悪化があると膵臓がんの可能性もあります。病院で相談してください。そして、肥満や飲酒、喫煙も膵臓がんの発生リスクを増す要因になります。膵臓がんに限らず、全

超音波内視鏡が高確率

リスク要因多ければ検査を



がん何でもクイズ

日本人の何人に1人ががんにかかると言われているでしょう。

- ①5人 ②3人 ③2人

行こうよ！がん検診

てのがんで早期発見が重要です。しかし膵臓がんの早期発見はまだまだ困難なのが実情です。早期の膵臓がんを見つけるためには、膵臓がんを疑って検査を受ける必要があります。外来では、患者からよく腫瘍マーカー（CEAやCA19-9）を調べてほしいと相談される

ことがありません。それでも、膵臓がんを含め早期がん得上昇していることは少ないです。

現在、内視鏡の先端に超音波装置が装着されている超音波内視鏡検査が高い確率で早期の膵臓がんを見つけることができます。検査として注目されています。しかし、楽な検査ではありません。腹部の超音波検査で異常を指摘された場合や、リスク要因がたくさん当てはまる場合は積極的に検査することが重要です。

このように膵臓がんを早期に見つけるのは、いまだ発展途上の段階です。それでも、発生を予防するため、早期に発見するために、節酒や禁煙、積極的に健康診断を受けるなど自分のできることから実践するのが大切です。もし膵臓がんと診断された場合でも、外科治療や抗がん剤治療が進歩しています。諦めずに医療スタッフに相談してください。共に克服を目指しましょう。

(第4十曜掲載)

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで)